

くつろぎ タイム



仙台商工会議所 3号議員
東日本旅客鉄道株式会社
(青葉区五橋)
執行役員 仙台支社長

まつき しげる
松木 茂 氏

昭和32年5月9日生まれ
仙台市出身
血液型A型

出張や旅行で訪れたまちを
歩いて回るのが好きなんです。
そのために運動を続けています。

仙台二高、一橋大学社会学部を経て、昭和57年日本国有鉄道に入社。昭和62年国鉄民営化に伴い東日本旅客鉄道株式会社に入社する。高崎支社総務部、事業創造本部、広報部の部長職を歴任し、平成26年4月より現職。

「ジエイアール東日本企画というハウスエージェンシーにおりましたときに、映画の製作委員会の一員になる機会が何度かありまして、映画のエンドロールに名前を載せていただいたことがあるんです。嵐やV6のメンバーが主役の映画のときは、娘に対する父親としての株が上がりました。ひと月くらいの間でしたが」と笑う。そんな松木氏の好きな言葉は、『雲の上は青空』。「そう考えると、少し気が楽になるでしょう」と話す。

普段から、よく歩かれるそうですね。

仕事でも個人的な旅行でも、そのまちを自分の足で歩いてみるんです。これまでもいろいろなところに行きましたが、例えば新潟くらいの規模のまちでしたら、2、3時間あれば駅から海岸線まで行って帰ってこられるんですよ。歩いてみると、いろんなものが見えてくるんです。新潟は運河で発達したまちですから、ちよっとした路地に入ってみると、「ここに堀があったんだな」とか、「ここに八百屋があって、魚屋があった、こんな生活があるんだろうな」といったことがうかがい知れる。それが自分としては面白くて、はまりました。

また、先程のハウスエージェンシーの仕事でスイスに行くことがありましてね。朝2、3時間くらい歩くと、小さなまちなら端から端まで行くことができますよ。こ

れが楽しくて、ずっと続けたいと思っています。これがしんどいと感じるようになってきたら、体力が落ちてきたということでしょうから、「衰えてはいられない」と、いまから準備をしているわけです。15年ほど前から、週末はジムで一日10キロくらいはマイペースで走っているんですよ。

歩き回ることが好きになったとき かけはどんなことだったのですか。

大学時代にサイクリング部に所属して、まして、北海道から九州まで、春と夏の長い休みは、放浪の旅を続けたことがきっかけでしょうか。最初の一週間くらいはサークルのみなどで走り、解散してからは一人で長崎から大阪まで20日くらいかけて、放浪するわけです。気心の知れた友人数人と、信州の山の中をあちこち走り回ったのもいい思い出です。自転車で回る、歩いて回る、やり方は違っても元来の放浪癖といったところでしょうか。

会社内のクラブ活動には 参加されているのですか。

広報部長のとき、会社の自転車好きが集まってクラブをつくることになり、会長を仰せつかりました。いまは、会長を後任にバトンタッチしましたが、当時は磐梯山まで行って檜原湖の周りを走ったりもしました。これはクラブ活動ではありませんが、私どもの会社の仙台と東京の野球部が、2014年の都市対抗野球大会に出場しましたね。その始球式で投球させていただけたという、名誉ある大役を命じられまして、それは大変なプレッシャーの中、東京ドームのマウンドに立ちました。野球は中学生

のときに軟式野球をやったくらいですから、野球部のOBに相手をしてもらい、まじめにピッチングの練習をしたんです。その甲斐あって、当日はどうかキャッチャーミットに収まる球を投げる事ができました。残念ながらチームは負けてしまったのですが、その日のお酒の味は格別でした。

休日はどのように過ごしていますか。

いま私は単身赴任で仙台に来ていますが、週末、東京の自宅に帰ったときには家内と一緒にジムに行ったり、こちらでは新緑や紅葉など季節を楽しみながらドライブし、その土地のものを食べて、近くの温泉に入って帰って来るような、そんな過ごし方をしています。

実は家内が「おいしいお寿司を食べに連れて行って」とか、「次はあの温泉に行きたい」と言いながら、ひと月に1回は、東京から仙台に来るんですよ。娘と一緒に連れて来ることもあります。

奥さまのために、いつもピフピフを練るのですか。

ちゃんと考えますよ。観光も私の仕事ですから(笑)。2014年は山形でデスティネーションキャンペーンが展開されましたが、2015年は福島が舞台ですので、その土地の良さを伝えるには、自分で行って、見て、感じる事が大切だと思うんです。自分の体験や実感から東北の良さをアピールすると、伝わり方も違うと思うのです。一人でも多くの方に東北に来ていただくことで、東北が元気になり、ひいては復興につながるのではないかと思います、楽しみながら

ら家内と一緒にあちらこちらに出かけています。

最後に、工事が進む仙台駅の開発 に対する思いをお聞かせください。

私は高校まで仙台におりまして、昭和51年に東京に行きました。その頃の仙台駅は、まだ仮駅舎でした。その後、昭和の時代の東北の玄関口としてきれいな駅舎が完成し、新幹線が開業しました。それから、約40年が経過し、仙台は百万都市になり、仙台駅東口も大きく変わってきました。まちのありようが変わってきましたから、仙台駅も時代の求めに応じてリニューアルしようというのが、現在進めている仙台駅のルネッサンス(再生・復活)なんです。考えてみると、昔の仙台といまの仙台をつなぐ工事しているのかな…というのが私の受け止め方です。ですから、また新たにしっかりと造り直して、これからさらに将来に向けて、皆さんに安全に快適に利用していただける仙台駅をつくらうという気持ちでおります。

取材日 平成26年10月24日



都市対抗野球始球式の様子(写真左:松木支社長)。

森

『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクルを、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全
本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)